

### 斑点米カメムシの発生が多くなっています

#### ～畦畔雑草処理と出穂後防除を徹底しましょう（普通期水稻）～

水稻の害虫である斑点米カメムシの発生が、平年に比べて多くなっています。今後出穂期をむかえる普通期水稻では、斑点米が多発するおそれがあるため、畦畔雑草の処理と出穂後の防除を徹底しましょう。

- 7月上中旬の普通期水稻での発生調査（調査対象種：ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ、シラホシカメムシ、トゲシラホシカメムシ、ミナミアオカメムシ、アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ）を行った結果、畦畔における20回振りのすくい取り調査では、発生圃場率は86.4%（過去10か年平均：69.5%）、虫数は55.1頭（過去10か年平均：20.7頭）と平年に比べて多かった（表1）。
- 県予察灯（綾川町）における7月第1半旬から7月第6半旬の誘殺数は、360頭と過去10か年の平均と比べてやや多かった（図1）。
- 斑点米カメムシは、登熟後期まで吸汁して斑点米を発生させるので、発生状況に注意して防除を行う。

表1 7月上中旬の普通期水稻における斑点米カメムシの発生状況

年次	発生圃場率(%)	虫数(頭) <sup>※1</sup>
2012年	72.7	15.5
2013年	63.6	13.9
2014年	72.7	23.2
2015年	63.6	13.1
2016年	63.3	24.5
2017年	86.4	41.6
2018年	77.3	27.1
2019年	59.1	24.2
2020年	63.6	10.0
2021年	72.7	13.5
<b>2022年</b>	<b>86.4</b>	<b>55.1</b>
平年	69.5	20.7

※1 発生圃場における平均虫数

#### 防除対策

- 出穂7日～10日前頃に畦畔雑草を処理する。
- 地域の栽培しおりを参考にして、的確に本田の防除を実施する。
- 収穫時期に近い防除となるため、薬剤を散布する際は、収穫前日数、使用回数等に十分注意し、使用基準を遵守する。

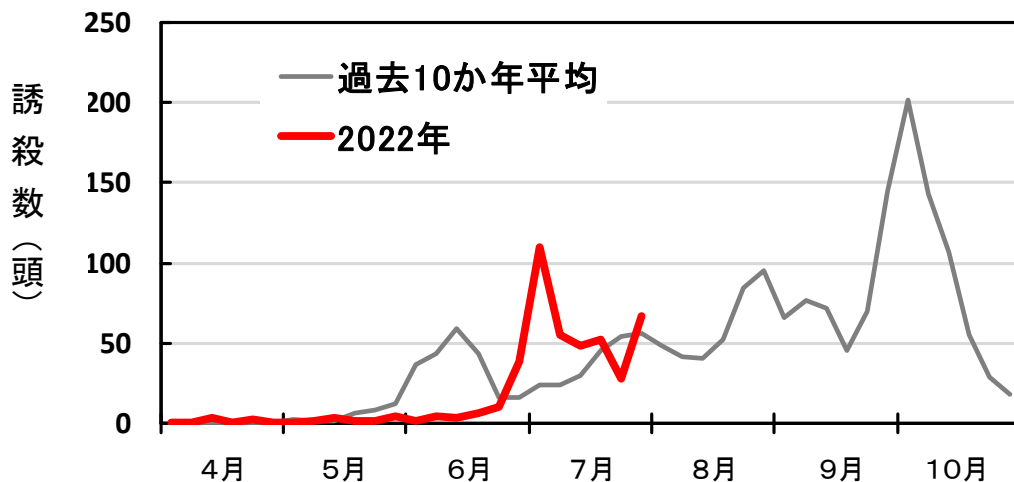


図1 斑点米カメムシの高圧水銀灯での誘殺数の推移(綾川町)